

空き家の実態調査結果（現地調査速報）

1 空き家数

- 現地調査後の空き家数は、以下のとおり、平成26年度と同じ地区（19学区）の結果のみを比較すると、431戸の減少であった。

図表1 平成30年度空き家実態調査の空き家件数

空き家数(H30)	空き家数(H26)
3,274 (19学区)	3,705 (19学区)
3,801 (25学区)	4,374 (24学区)

- ※ 今回の速報値では空き家数の減少が見られたが、近年の観光需要等の影響なども考えられることから、今後の人口減少社会においては、空き家の増加を見据えておく必要がある。

2 空き家数及び世帯数の増減の状況

- 空き家数と世帯数の関係について、世帯数の増加が空き家数の減少につながり、世帯数の減少が空き家数の増加につながると推測していたが、以下のとおり、必ずしも推測どおりの結果とはなっていない。

図表2 空き家数及び世帯数の増減について（学区数）

グループ	広域拠点 エリア	地域拠点 エリア	日常生活 エリア	ものづくり 産業集積エリア	緑豊かな エリア	合計 (重複除く)
空き家数：減少 世帯数：減少	1	1	2	—	(1)	4
空き家数：減少 世帯数：増加	3	4	4	—	(1)	11
空き家数：増加 世帯数：減少	—	—	—	—	—	—
空き家数：増加 世帯数：増加	—	—	3	1	—	4
世帯数：増加	2	—	—	2	—	4
世帯数：減少	—	—	2	—	—	2
合計	6	5	11	3	(2)	25

- ※ エリアは『「京都市持続可能な都市構築プラン（仮称）」骨子（案）』に基づく分類（エリアについての詳細は、参考資料1を参照）

- ※ 調査対象の26学区のうち、25学区について現地調査済み

- ※ 緑豊かなエリアについては、他のエリアに属する学区の一部であるため、再掲

- ※ 空き家数：空き家の実態調査結果（H30 - H26）

世帯数：国勢調査結果（H30 - H22）

ただし、世帯数については、H27の国勢調査結果から、本市が推計した数値。

- ※ H26の調査を実施していない学区は、世帯数の増減のみで分類（太線囲）